

考え、議論する道徳

千川中学校長

紅床 直也

季節はもう秋から冬へと向かおうとしています。この時期、学校では来年度に向けての準備を本格的に開始します。大きな行事については、実施直後に教職員はもちろん保護者の方からもアンケートを取りますが、日常の授業を中心とした教育活動全般を改めて検証するために、再度総合的なアンケート調査を行い、それを受けて本校生徒の知・徳・体の向上と人格の完成を目指したより良い教育課程を作っていきます。特に来年度は、ゴールデンウィークが10連休になるなど、授業時間数確保にも工夫をしないと、十分な教育活動が維持できない可能性があります。また、「東アジア文化都市 2019 豊島」への協力や、再来年度に迫った「東京オリンピック・パラリンピック」を念頭に入れながらの立案となります。

さて、来年度から全国の中学校では「特別の教科 道徳」が全面実施されます。今までも「道徳の時間」として、週に1単位時間行ってきましたが、昨今の「いじめ問題」を背景として、心の教育を強化する必要があるという観点から、教科化されることになりました。

学習指導要領等から、少し、引用させていただくと、教科としての道徳の目標は、「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考える学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とあります。

中学校は義務教育の出口であり、上級学校進学を控えることから、教科としての道徳の評価を気になされる保護者の方もいることと思います。他の教科と違って「特別の教科」としている理由の一つに、評価の仕方が他の授業とは違っていることがあげられます。英語や数学など他教科の評定などとは基本的な性格が異なり、調査書(内申書)には記載せず、入試には使われません。

ただし、教科である限り、毎学期のいわゆる「通知表」での評価は当然ありますが、生徒の学習状況を踏まえ、成長の様子などに係る顕著な事項を文章で記述することになります。数値による評価は行いません。個々の「道徳性」自体を評価することはしませんし、あくまでも個人内評価となり、誰かと比較する相対評価ではありません。

学校現場では心の荒廃を防ぐべく、さまざまな方策をとってきました。しかし、依然として、「いじめ」を根絶することは難しく、学校が知らないまま(対処ができないまま)事態が悪い方向に進むこともないとは言えません。本校でも定期的に「いじめに関するアンケート」を実施するだけでなく、通常の学校生活の看取りを強化していますが、どこの学校でもいじめの芽は存在する、起こる以前の対策こそが肝要であるという共通認識で全教職員が当たっています。

SNSでのやり取りや、掲示板への書き込み、いわゆるLINEはずしなど、ますます見えにくくなる案件ですが、「道徳科」の実践と共に、教職員と生徒、生徒と生徒の信頼関係を基盤にその撲滅を目指します。究極の「安心安全」は心の居場所をどう作るかにかかっています。

創る喜びを分かち合った文化祭



～みんなで創る 186 人音色 澄み渡れ 僕らの歌声～

取組は夏から始まりました。音楽の授業で合唱の曲目を決めたのは6月でした。そこから音取りのパート練習、合わせ、指揮者や伴奏者の練習・・・と一つの曲の完成をクラス全員で目指しました。教科の学習では、平常の授業に加え、夏休みの宿題として取り組んだ成果物、学校行事では、事前事後の学習で制作した作品を展示しました。生徒会や委員会、部活動の活動では、異なる学年の生徒同士で協力し、自主的に協力しながら作り上げたことの発表となりました。

なぜ、行事が終わった後に、こんなにも充実感、達成感を味わうことができるのでしょうか。それは、長い時間をかけ、一人一人が試行錯誤を繰り返しながら、仲間と共に創り上げていくから感じることができるのだと思います。行事を通して、学び得たものは大きく、必ずこれから歩み進む上での糧になります。

当日は、展示も舞台の発表も保護者や地域の皆様に多数ご参観いただき、ありがとうございました。生徒の作品に込めた思いを受けとめていただけたら幸いです。

◆◇能代いなか体験に参加 11月2日(金)～4日(日)◆◇

今回の体験で多くの方と関わり、様々なことを学びました。その中の一つが礼儀、そして挨拶の大切さです。普段は自然に何となくしていることを意識して行い、相手に誠意が伝わるよう努めました。反応もしっかりしようとする、民泊や体験先の方はたくさんのことを教えてください、農業体験では代表で機械を使っての収穫体験をすることができました。さらにひとつ学んだことは、人の温かさです。このいなか体験に臨む上で、一番心配だったことが、人との接し方です。元々、人見知りである私は、声をかけることができて、話を続けることが苦手です。しかし、民泊先の方々や能代の中学生は明るく、優しく、楽しい時間を過ごすことができました。三日間の体験で、礼儀正しく過ごし、人の温かみを感じたことで、人との関わり方を新たに学び、自分の成長を感じました。知らない場所で初対面の人と関わるができる、このいなか体験は、素晴らしいもので、代表としていくことができ、本当にありがたく思います。この貴重な三日間を今後生かしていきたいです。

私は能代いなか体験を通して様々なことを経験することができました。私が3日間の生活の中で一番印象に残っているのは、能代の中学生との交流です。交流の内容は、町歩き・ねぎの収穫・バスケットボール見学・火力発電所見学でした。能代の中学生と町歩きをしている際に、「能代のいいところはどこですか」と聞いたら、「初対面の人でもすぐに仲良くなれるところかな」と答えてくれました。私もお店に入った時などに、どこのお店に行っても、とてもフレンドリーに会話をして下さい、能代の方々の優しさを感じることができました。その他にも受け入れ農家さんに連れて行っていただいた海では、夕焼けを見ることができ、とても印象に残っています。私は、この能代いなか体験を通して自然の大切さや人と関わるることの大切さを学ぶことができました。この能代いなか体験を通して学んだことを、これからの学校生活にしっかりと生かしていきたいと思います。

生徒の活躍

- 「巣鴨くじら祭り 2018」第3回くじら川柳 佳作 **** (2年)
- バドミントン部 豊島区中学校秋季大会 団体男子 第3位、団体女子 第3位
- 卓球部 豊島区中学校秋季大会 男子団体 第3位
- 豊島区読書感想文コンクール
入選 「時給三百円の死神」を読んで **** (2年)

